







開発課題 2-2 (小目標) ルサカ都市圏の 基盤強化	【現状と課題】 首都ルサカは多くの国際回廊（南北、ダルエスサラーム、ナカラ、ベイラ等）の結節点にあり、ザンビアの主要な経済・社会活動拠点として重要な役割を担っている。他方、国全体の人口増加、地方からの人口流入に伴い、経済・社会活動の基盤となるインフラ整備が追い付いていない。また、ルサカ市を超えて市街地が無秩序に拡大し、適切な都市計画及び管理も急務となっている。加えて、都市内移動需要の増加も顕著であるものの、都市交通の整備も不十分である。		【開発課題への対応方針】 ルサカ都市圏を対象とした次期総合都市開発計画の策定支援を通じて、実態に即した中・長期的な開発方針及びセクター別の開発計画を定める。同計画において優先度の高い都市インフラ（廃棄物管理、水衛生環境）を特定し、資金協力、技術協力を通じ、ハード・ソフト両面での協力可能性を追求するとともに、他ドナーからの資金動員も検討する。また、同計画の実効性を高めるため、都市計画・管理に係る関係者の能力強化も合わせて実施する。									
	協カプログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
				2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度			
	ルサカ都市圏開 発プログラム	ルサカ都市圏総合開発マスタープラン策定プロジェクト	開発計画調査型技協	■	■	■					3.47	9, 11
		ルサカ市きれいな街プロジェクト	技プロ	■	■	■	■				4.48	6, 9, 11
下痢リスク可視化によるアフリカ都市周縁地域の参加型水・衛生計画と水・衛生統計プロジェクト		科学技術		■	■	■	■	■		3.63	6, 11	
子どもと若者の参加型アクションリサーチによる地域に根差したWASH（水、トイレ、衛生）モデルの共創		草の根技協	■	■	■	■					6, 11	



協カプログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
			2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度			
開発課題3-1 (小目標) 社会サービスの アクセス・質向上	STEM教育	個別専門家		■	■					4	
	教育分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償	■	■	■					4	
	教育分野の日本NGO連携無償資金協力	日本NGO	■	■	■					4	
	SMASEアフリカにおける理数科教授法強化	第三国研修	■	■						4	
	SMASEアフリカにおける理数科教授法強化フェーズⅡ	第三国研修		■	■	■	■			4	
	STEM中等学校における理数科教育強化計画	協力準備調査	■							4	
	STEM中等学校における理数科教育強化計画	無償	■	■	■	■			16.44	4	
	子どもの学び改善	長期研修		■	■	■				4	
	教育分野の海外協力隊派遣	JOCV	■	■						4	
	リビングストーン博物館における研究、保存、展示及び教育のための機材整備計画	無償	■	■					0.89	4	
SDGsグローバルリーダー	長期研修		■	■	■				4		

【現状と課題】  
ザンビアの識字率（15歳～24歳）は93%（世界銀行2020年）と低くないが、読解力、算数能力は東南部アフリカ域内で最下位という調査結果もある。ザンビア政府は、授業料の無償化、教員の新規雇用等を通じて就学率の向上を図っているものの、教育インフラ（教室、教員、教科書、教材等）の不足や教育の質に課題を抱えており、教育のインフラと質（カリキュラム改訂、教科書改善、教員教育、学力評価方法）の双方での改善が急務である。中でも、経済成長をけん引する産業人材育成に貢献する中等教育におけるSTEM（Science, Technology, Engineering and Mathematics）分野の教育の質向上が求められる。

【開発課題への対応方針】  
将来の産業人材として経済活動を支える質の高い人材の育成に向けて前期中等学年（G8-9）のSTEM分野における学力向上を図る。具体的には、理科・数学の授業内容（方法）及び教材の改善策を複数の学校で試行し、学力向上のエビデンスを獲得する。  
また、これまでのJICAの協力成果（授業研究、教員養成、教科書開発）を踏まえつつ、カリキュラム改訂に向けた提言を行うとともに、汎アフリカで活用可能な教科書テンプレートを、域内周辺国に展開する。

【凡例】 「協準」（＝全ての協力準備調査）、「詳細設計」（＝詳細設計）、「基礎情報調査」（＝基礎情報収集・確認調査）、「技プロ」（＝技術協力プロジェクト）、「開発計画」（＝開発計画調査型技術協力）、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」（＝課題別研修及び青年研修、長期研修）、「JOCV」（＝JICA海外協力隊）、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」（＝科学技術協力（技プロ型及び個別専門家型、SATREPS））、「草の根技協」（＝草の根技術協力）、「〇〇省技協」（＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力）、「民間提案型技協」（＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業）、「SDGs調査」（＝途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査）、「無償」（＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力）「食糧援助」（＝食糧援助）、「一般文化」（＝一般文化無償資金協力）、「草の根文化」（＝草の根文化無償資金協力）、「緊急無償」（＝緊急無償資金協力）、「日本NGO」（＝日本NGO連携無償資金協力）、「草の根無償」（＝草の根・人間の安全保障無償資金協力）、「有償」（＝円借款、海外投融資）、「マルチ」（＝国際機関等を通じた多国間協カスキーム）、「基礎調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」）、「案件化調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」）、「普及・実証・ビジネス化事業」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」）、「ニーズ確認調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ニーズ確認調査」）、「ビジネス化実証事業」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ビジネス化実証事業」）、「実線「——」（＝実施期間）、「破線「- - -」（＝実施予定期間） ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。

【SDGsゴールの説明】 1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」、14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】 [https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs\\_pamphlet.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf)